

陳情書

件名

三鷹市の最高規範である、三鷹市自治基本条例、基本構想、基本計画を順守し
その趣旨を正しくし理解し、家族と世代交代を直視した
住み良い三鷹にする事について。

陳情者の氏名

杉本正隆

陳	情
第	6 号



三鷹市 市議会 議長
伊藤俊明 様

提出年月日

2024.6.6

陳情者の住所 三鷹市

陳情者の氏名

杉本正隆

電話

件名 三鷹市の最高規範である、三鷹市自治基本条例、基本構想、基本計画を順守し
その趣旨を正しく理解し、家族と世代交代を直視した住み良い三鷹にする事について。

陳情の趣旨

市民が市政を評価し、市民間で共有する事が、三鷹市を住み良くする原点です。
選挙時だけの接点だけでは、乖離するばかりであり、本質の究明が、急務です。
私は、三鷹市の実態を直視する事が出来、三鷹市への幻想が消え、やるべき事が
見えたので、陳情する事を決めました。
私が強調したいのは、三鷹市自治基本条例を頂点とした、基本構想や基本計画は、
最高規範を順守する事であり、個々の機能を市民の立ち位置から、家庭生活の実態を直視し
社会が常に大きく変化する事を見越した上で、市政を市長・議長・市議に考えてもらいたい。
説明責任を果たしていただきたいのです。

市民が行う、市政の評価は、市民主体の取組みです。

しかし、住み良い三鷹市は、接点に位置するものであり、一貫した哲学がなければなりません。
今、手探り状態から、その足がかりが見え始め、脱却しつつあり、接点となる考え方や世界観・基盤が
認識出来るようになり、希望が持てる状況になりました。
市民と市政の関係者が、障害は、まだ山積していますが、並走する形で、取組む事が出来ます。

600万年前、私達の先人は、動物から進化する過程で、4足歩行から、試行錯誤を繰り返し、
2足歩行にチャレンジし、努力した結果、ようやく成功し、その成果として、1300g の大脳を持つ
人間に進化し、思考し「考える能力を入手し、今日の現代社会と繁栄を入手したと言う、
実績があります。おそらく、当時の原人も、同じジレンマから、脱却して、進化したと考えられます。
「進化」の条件を、今持っているのが、シニア世代である事が理解されつつあり、
認識を新たにする事が、私が求めていた、一貫した哲学になると考えているところです。
今の三鷹市を例えると、4 足歩行の動物時代であり、
私の目指す三鷹市は進化した、2 足歩行を獲得し、考える事が出来る三鷹市なのです。

今、三鷹市は、市内で動ける市民は、限定され、且つ離反し、市政には無関心です。
ライフステージの考えからすれば、昼間と夜間の人口に差が発生し、昼間は高齢者や子供で
夜間は、全員が集まる、家庭生活となりつつあります。
市長、議長、執行機関側も、内向きの指向が強く、かつ、視点が目先集中し、進路が定まらず
行っている事が、支離滅裂で、将来像も定まっていない実態があります。
人間が生態系に属している事さえも忘れていました。

更に、自治が2元代表制を敷いている事すらも忘れ、自画自賛の傾向も見られます。

しかし、現役世代の市民は、社会に貢献し、現代社会を維持発展に寄与し、貢献していますが三鷹市には、無関心で、且つ誤認している状況です。

ベットタウン化した三鷹市には、現役を離れ、家庭に戻った、シニア世代が主体で有り、現役世代とのギャップを、24時間三鷹市に関わる事で、市政の実態を肌感覚で受け止め、その直撃を受け、失望しています。

当事者であり、市民である、私の立ち位置から、事例を話しますので、市政に関わる人は、ギャップを理解し、市民像を改めていただき、何もかも異なっている実態を具体的に考えていただきたい

民間企業での環境と家庭環境では、立ち位置や生活形態が想像以上に、大きく三鷹市の実態は、直視する事が出来、三鷹市への幻想が消え、やるべき事が見えたので、陳情する事を決めました。

現役時代は、夜帰宅し、早朝に出勤する家庭生活で、市政は、無関で全てを受け入れていました。現役を離れ、職業から家庭生活へ転換し、市政を諸に関わると、肌感覚で、違和感を受け、両親を介護する時には、不安と混乱が高まりました。市からの情報提供も一方的でした。その時、市政のあり方を、私なりに考える様になりました。

家庭生活では、終末期の母親を早期退院させ、自宅で24時間介護し、笑顔が戻り、結果的には看取る事にはなりましたが、報われる介護が出来ました。

自分で考え、行動する事は、結果として良かったと自己評価しました。

介護の事から、予備知識が多少でもあれば、思考により、理想の介護が出来ると考えます。

以上の事を含み、シニア世代の私は、家庭生活で、母親の介護から、多く学びました。

市民と市政の執行側と大きく異なる点があります。

市民生活は家族・世代交代に関する事で、限定している人間関係で、常に変化しているのに対し市政に関わるのは、部分的で有り、家庭生活が主で、人生は誕生から死去までと長い。

市政の執行機関は現役の世代が8時間貼りついで、同じ業務を連続で、職業であり人生も現役世代前後に限られ短期間であり、この違いが、根底にあり、違和感の原因と考えます。市民生活に対する、認識にも、大きく影響しています。

関わると考えられます。また、市民側は、大きく変化するのに、執行側は毎日が一定の業務で有り、責任分界点があり

鳥瞰的に、見る事が出来ない点も、大きく異なる点です。

市民と執行機関との接点でも、市民側は家庭生活やシニア世代の弱者に対し、執行機関側は、現役世代と異なっている実態も有ります。

また、ライフステージを導入し、シニア世代の市民が、時間をかけて、三鷹市の住み易い将来像を模索し、可視化し、ライフステージ上の青年期・自立期に位置して次世代の若者に伝え、「文化・文明を次世代に伝承する」シニア世代の役割を果たしたいと私は考えています。

補足

陳情書を書くにあたり、考えた事です。

また、アンケート等の調査は、偏りがあり、定点定時の実態観察へ、変えることを提案したい。
私は児童公園を定点定時実態調査を、3年行っていますが、市の見解と異なる体験しています。
また、意外な結果として、作用・反作用が見られ、多くの事に気付く事がありました。
更に、背景や関わる人間や状況によって、結果は常に変わります。

アンケート調査の様な結果は、意図的な結果に、誘導され、事実を誤認する危険性が常に内包しています。

事実を把握するには、…予備知識の量や、周囲の状況、登場人物等の位置づけ、
どのようにするかにより、結果に影響しますので、常に慎重に対応する事が重要です。

※

私はパブリックコメントの中で、今、市長が提示している諸事項は、三鷹市自治基本条例の意図から、外れ、順守していない内容です。

パブリックコメントの結果は、対象の案件が決定されてから、公表されています。

従って、記載した市民の意思は、一方通行で、誤認等が懸念される状況下で運用されています。

私の体験から、全市民が守るべきルールを知り、順守し、市民間で、得意分野の市民がその知見とスキルを活用し、市民の立ち位置で市政を評価し、快適な環境を体験すれば、自然発生的に住み良い三鷹市は、広まる事を知りました。

また、市民が常に次世代を見据え、有るべき姿を可視化した将来像を共有する事と、適切な時期に、新旧対照表で、ポイントを強調した改定の趣旨を明解にした基本構想を社会的合意形成で、市民の意向として、三鷹市自治基本条例を順守する中で、進化を担う、シニア世代が、シニアの役割として、行動し、次世代に伝承すれば、住み良い三鷹市は、広まる事を知りました。

三鷹市民が自治基本条例を順守する事は、市民としての責務であり、私は順守しています。

全市民が三鷹市自治基本条例のガイドブックを見て、理解し、順守し、実行する事で、住み易い三鷹市は、実現出来ると私は、信じています。

ぜひ、三鷹市民は理解してほしい。履行して、更に次世代に伝えてほしいのです。

又、市民が市民を高め合う事も、知見を上げる事が、不可欠となります。

自治は、2元代表制が信託の基盤です、市長、市議会議長の認識と責務も重要です。

以上